

認定心理士の会から

認定心理士は「その後」が面白い

あなたの周りにも、認定心理士の資格を持った方がおられるかもしれません。大学で心理学を学び、卒業とともに資格を取得したものの、その後は仕事や家庭に追われ、心理学から少し距離ができていても多いのではないのでしょうか。

私に関わっている関東支部が開催しているイベント参加者の年代を見ると、中心となっているのは50代・60代です。40代や70代以上の参加も多く、そこに20代・30代の若い世代が加わっています。これは、認定心理士が「学生時代に取得して終わり」の資格ではなく、人生のさまざまな節目で、もう一度心理学に立ち戻るためのつながりになっていることを示しているように思います。

実際、認定心理士の会のイベントには毎回多くの方が参加しています。100名を超える参加が中心で、多い企画では200名規模になることもあります。小規模な企画でも数十名が集まり、全国で継続的に開催されていることを考えると、心理学を学び続けたいと考える人の多さを実感します。

仕事の中で人との関わりに悩んだとき、管理職になったとき、子育てや家族のことを考えるようになったとき、あるいは定年後に改めて学び直したいと思ったとき。そんな場面で、「もう一度心理学を学びたい」と感じる人は少なくありません。認定心理士の会のイベントは、教育、福祉、司法、産業、地域支援などテーマが多岐にわたっており、その思いに自然に添えてくれる場所です。

認定心理士は、資格を取った後からが本当のスタートかもしれません。まずは「少し気になる」と思った企画に、気軽に参加してみてください。もし身近に認定心理士の資格を持つ方がいたら、ぜひ声をかけてみてください。そこから、新しい学びや人とのつながりが始まるはずです。

(認定心理士の会関東支部運営委員 本田周二)

若手の会から

つながりの「きっかけ」をつくる

2026年3月、若手の会の新企画「若手マッチングイベント2026」を東京で開催しました。従来の「異分野間協働懇話会」を発展させた本イベントには、心理学のさまざまな領域から若手研究者や大学院生が集まりました。

なかでも印象に残ったのは、スキルマッチングのワークショップです。「あなたは統計が得意、私は実験が得意、では組みましょう」で終わるのではなく、互いのスキルを掛け合わせてどんな新しい研究の物語が描けるのかを、参加者同士で真剣に考える時間になっていました。また、研究者マッチングのデモサイトを実際に触りながら具体的なアイデアが飛び交う場面もあり、ふだん研究室の中だけで完結しがちな「誰かと一緒にやりたい」という気持ちが、一気に形を帯びていく手応えがありました。

そうしたやりとりを通じてひとつ感じたのは、異なる分野の人と言葉を交わすと、自分が何を大事にしている研究者なのか不思議とくっきり見えてくる、ということです。会場でも、「自分の輪郭が浮かび上がる」瞬間を楽しんでいる方が多かったように思います。つながりは、まず「きっかけ」がなければ始まりません。若手の会が、その最初の一步を用意できる場であり続けたいと考えています。

そんな若手の会から、お知らせです。このたびホームページをリニューアルしました。

<https://sites.google.com/view/wakate-psych-2>

活動の最新情報やバックナンバーをまとめていますので、ぜひご覧ください。また、幹事も随時募集しています。若手の会での活動が、皆様にとっての新しい「きっかけ」につながれば幸いです。

(若手の会幹事 上原昇馬)